

報恩講とまる

真宗門徒が最も大切にしてきた報恩講、十月

一日から門徒各戸を回る「通り報恩講」にはじまり、最後の行事の蔵本通支坊「ご正當報恩講法座」が終わるまでの五ヶ月間、二〇二三年度も大事にまとめました。

通り報恩講

お寺の近くは、日と順番をコース表でお知らせして六名でお参りしています(通称「コース」)。ご都合が合わない場合や、お寺から遠いご門徒は、相談の上、別の日時にお参りしています(通称「別修」)。昨今、旧市内は高齢化と過疎化で「コース」のご門徒が急速に減少、近い将来「通り報恩講」ができなくなるのではと心配ですが、ありがたいことに、「別修」として、仕事を差し繰り、遠方から戻ってまで大切にご縁あわれる方も多く、形は変わりながらも伝統

が伝わってゆきそうに喜んでいます。



皆さんでご縁にあつて下さると、とても嬉しい。写真は末廣さん家の報恩講。

お取り越し報恩講法座

三津田支坊は、東京から本多静芳先生をお招きし、「あなたも、報恩講をお迎えしよう」というテーマでお話いただきました。ご満座参詣者には、婦人会による心のこもったお齋

のお接待がありました。



三津田支坊のお齋

蔵本通支坊は、先日『妙好人めぐりの旅』を出版された大阪の伊藤智誠先生をお招きし、「法薬に出



伊藤智誠著『妙好人めぐりの旅』法蔵館

会った人々」と題してお話いただきました。

また婦人会による出店もありました。普段手に入らない昆布や美味しい団子などが人気です。



売店のみなさん。暗くてすみません。

お齋のうどんやいなり寿司も、お精進とは思えないと評判です。忙しくて今年お参りできなかった皆さんも、ぜひ次の報恩講には、



お寺でお齋をいただくと、もれなくかしの木クッキーがもらえます。

(年に一度を目標に)お参り下さい。



蔵本通支坊スタッフの皆さん(写っていない方もたくさんいます。)



報恩講はお仏壇のお掃除(おみがき)をします。こちらのお仏壇は真鍮製のおりんなど、ヒカヒカ